足立学園中学校

算数

大問は 5～6 題で、設問は 20～25 問です。1は整数・小数・分数の四則計算と、□の値を逆算で求める問題が中心になっています。2は短文の文章題で、旅人算や仕事算、図形の角度や面積などです。3～5は応用問題で、速さや水量、面積・体積などの変化の様子をとらえる力や、数の性質や周期性に着目して、ある規則を発見する力などを求めています。図形では､比例の考えを利用して解く力､点や図形を回転･移動させたときの様子をとらえる力、立体図形の体積や切断面を考える力を見る問題を出題しています。

国語

1が漢字の書き取りと読み（特別奨学生入試は書き取りのみ)、2が文学的文章（小説や随筆)、3が説明的文章（評論）の 3 題で構成されています。文学的文章の読解では、登場人物の人間関係、主な出来事による登場人物の気持ちの変化が把握できているかどうかを見ます。説明的文章では、筆者の主張を読み取れるかどうかがポイントです。また、2と3では語彙問題を出題するので注意しましょう。

理科

一般入試は、大問 4 題で 4 分野から、物理・化学の配点を高くして出題します。特別奨学生入試は大問 3 題で、1はそれぞれ 4 分野のなかの 1 分野から出し、2と3は 4 分野のうち 2 分野からそれぞれ総合問題を出題します。1と比べ、2と3は配点が高めとなっています。いずれの入試も、①文章の読み取りとそのなかの理科的現象の理解、②理科的用語の意味の理解、③グラフや表の読み取り、④実験に関する操作・装置・器具の理解、⑤観察した自然現象を頭の中でイメージし、それを文章や図で表現できる力などを重視します。また、最近の理科のニュースなども押さえておきましょう。

社会

3 分野の広い範囲からまんべんなく、基礎的な問題を中心に 3 題出題するので、4 年生以降の教科書をしっかり復習しておきましょう。公民は時事問題をリード文にして出題する場合が多くなっています。歴史は幅広い時代・分野から出題します。教科書をよく読み、時代ごとにまとめておきましょう。また、地理を中心とする総合問題も出題するので、都道府県ごとの形、代表的な産業、歴史上の人物、文化などに関することを整理して覚えましょう。

その他関連情報

特別奨学生入試（午後入試）の問題は、一般入試（午前入試）より多少難しくなります。ただし、出題傾向は上記の内容とほぼ同じです。

海城中学校

算数
十二分な計算力を問います。幅広いテーマの問題で思考力と処理能力を試します。

国語
まず、長文読解の力が必要となります。全文を通した文章の展開や心情の流れを把握することが大切です。出題は論理的文章と心情的文章の各 1 題が基本となります。記述式の問いも含まれるので、抜き出しができる力だけでなく、まとめて表現する力も養っておいてください。そのほか、ことばや国語の基本的知識も十分に学習しておいてください。

理科
物理・化学・生物・地学の 4 分野から均等に出題するので、小学校で学ぶ知識をもとに、幅のある応用力を身につけてください。また、的確な論述力も必要となります。

社会
地理・歴史・公民の 3 分野を融合した論述問題が中心になっているので、分野間のつながりも意識しながら学習しておくとよいでしょう。歴史は日本史が中心ですが、日本と世界との関係も重視しています。地理・公民は時事的な視点も入れています。各分野の基本的な知識は覚えておく必要がありますが、やたらに細かい丸暗記は必要ありません。それよりも、できるだけ興味を持って考え、資料を読み取って問題点を的確に表現できるような力を育てておいてください。

学習院中等科

算数

大問数は例年と同様 6 題で、計算問題と基本的な文章問題、応用問題という構成で出題する予定です。ほとんどの文章問題には部分点があります（答えのみを書いても、ほとんど点になりません)。

国語

説明的文章と文学的文章の 2 系統から出題することが多くなっています。漢字の学習をしっかりやっておくとよいでしょう。記述式の問題の対策も大切です。

理科

環境分野も含め、全分野から出題します。実験・観察・観測の結果の解釈も重視します。最近、話題になった科学・技術分野の出来事からも出題します。

社会

地理的分野・歴史的分野・公民的分野からほぼ均等に出題することで基礎的な知識を問います。また、多角的に出題することで社会的現象をとらえる力を見ます。

京華中学校

算数

中学校の数学の授業を理解できる基礎力があるかどうかを見るために、四則演算と基礎的な小問を出題します。大問は難問ではなく、設問文を読んで理解し、物事を明確にとらえて数式に直して計算できるかを試す問題です。

国語

3500 字程度の長さの文学的文章と説明的文章を 1 題ずつ出題します。登場人物の心情把握、理由の説明については選択肢や記述形式で出題し、傍線部のことばの言い換えの抜き出し問題や、具体的な説明を問う形式の問題もあります。また、小学 5・6 年生で習う漢字を中心に読みと書きを独立して出題します。

理科

物理・化学・生物・地学の全分野からまんべんなく出題し、基本的な知識・計算力・理解力を問います。また、知っていれば解けるような問題だけでなく、文章や資料から情報を読み取り、科学的に分析し、考察する力を測る問題も出題します。

社会

一つのテーマに沿った文章から、空欄補充や下線が引かれた語句について問う問題を出します。地理・歴史・公民分野それぞれの単独問題、あるいは融合した問題になります。図や写真を提示し、時事問題なども出題します。また、近年はデータを活用したり、資料を読み解いたりして思考力を問う論述問題も出題します。地名や人名について漢字で書けるものは、すべて漢字で解答できるようにしておいてください。

適性検査型

2 月 1 日の適性検査型入試は、白鷗中学校を徹底研究した問題を出題します。Ⅰ型とⅡ型は共通問題なので、両国や大泉、富士中学校の対策にも有効です。また、本校の入試は白鷗中学校と同一時間割で実施し、平均点と正答率も発表します。ですから、本番に向けた良い準備ができます。受検料も 1 万 2000 円と受けやすくなっています。白鷗中学校などの志望校の過去問演習を通じて、出題傾向をつかむことが合格への近道です。出題傾向は 12 月 20 日に実施するプレ入試体験でさらに詳しく把握することができます（Ⅱ型のみの実施）。本校のプレ入試体験と適性検査型入試の受験を経て、2 月 3 日の合格を勝ち取ってください。

攻玉社中学校

【第１回・第２回】

算数

大問４題の構成で、1は基本的な計算問題（分数や小数の四則演算、空欄補充、約束記号など）、2は小問集合（算数全般に関する問題）、3は文章題（時間と速さ、濃度・規則性など）、4は図形（相似に関する比、連比・面積の計算、立体の表面積・体積など）を出題する予定です。解答のみを採点し、途中式は部分点の対象としません。定規・コンパスは持ち込み不可です。分数は「帯分数」「仮分数」ともに○にしていますが、約分忘れは減点します。比の形で答えるときは、「最も簡単な整数の比で」という指定をしています。また、小数点の桁の間違いは、減点ではなく×とします。「cm」や「分」など、答えに単位が必要な問題は、解答欄に単位を記載してあります。

国語

漢字の読み書きの問題（一・二）、国語常識の問題（三）、文章題（四・五）、という大問５題構成です。漢字の書き取りは「とめ・はね・はらい」まできちんと書いてください。国語常識の問題では、慣用句やことわざなどの幅広い日本語の知識を出題します。文章題は文学的文章と説明的文章で、記述力も含めてさまざまな観点から国語力を問うようにしています。記述問題は自分の意見を述べられるかではなく、本文の内容を理解しているかを見るものです。過去の問題を解き、演習を繰り返すとともに、ふだんから辞書を使って語彙を増やしたり、字をていねいに書いたりする癖をつけるように心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の４分野から大問１題ずつ、計４題の出題です。第１回・第２回ともに、各分野の出題順は決まっていませんが、なるべく取り組みやすい問題を第 1 問にしています。配点も均等で、各分野 12 点か 13 点、合計 50 点です。本校入学後の授業は、実験・観察を中心に展開していくこともあり、実験・観察を題材にした問題が多くなっています。また、自然に対して興味・関心を持ってほしいので、特に生物・地学の分野では、教科書の内容を超えた知識や時事的な知識を問うことがあります。物理分野では、基本的な問題とともに、やや応用的な思考力や計算力を見る問題も出題します。化学分野では、実験に関する問題を中心に、化学の学習を進めるうえでの基礎となる、物質の性質に関する問題を繰り返し出しています。生物分野では、基本的な知識とともに、身の回りの自然や、新聞などに載っている時事的な内容に関する問題を出します。地学分野では、以前は主に基礎的な学力を問う出題となっていましたが、前年度からは他分野と同じく思考力・総合力を問う問題の比率を増やしています。４分野ともに、過去の問題をできるだけ多く解き、思考力・総合力を養っておくことが大切です。

社会

「歴史分野」「地理分野」「公民分野」で大問を構成し、バランスよく出題するように心がけています。歴史史料や統計データ、雨温図などの図表の読み取り問題や、文章を書かせる記

述問題を出題する可能性があります。記述問題の字数は 30～60 字程度を予定しています。人名や地名、語句などは漢字で正しく書けるようにしてください。これまで繰り返し出題されているテーマは、今年度も出題される可能性があります。過去の問題を解き演習を繰り返すとともに、日ごろから新聞やニュースに触れるようにしてください。時事的な問題については、自分と社会がどのようにつながり、どのように影響し合うのかをじっくり考えることが大切です。

【特別選抜試験】

算数

答えのみを記入する「算数（共通)」と、途中の解法も記述する「算数（発展)」の、二つの試験を行います。「算数（共通)」は小問題の形式で、計算、規則性、場合の数、図形、論理的思考など、算数に関するさまざまなジャンルから出題します。「算数（発展)」は、長めの文章題や図形の応用問題が 3 題で、途中の考え方も記述する形式です。答えが間違っていても途中の式や数値によって加点する場合があります。数式で書けない場合はことばや図でかいても構いません。また、中学以上の知識を利用して解答しても、考え方・内容が合っていれば正答としますが、問題としては小学生の知識で解ける内容になっています。これまでの出題分野は、整数問題、中学高校数学に通じる単元、立体の計算（計算量が多いもの）などです。

国語

漢字の書き取り、国語知識、読解問題の 3 分野から出題し、語彙力・読解力・表現力など、総合的な国語力を測ります。漢字は小学校の学習範囲を超えて出題する場合があります。国語知識問題は幅広い分野から出題します。

読解問題ではやや長めの文章を扱い、内容説明・理由説明などの記述問題を多く含みます。記述問題には部分点を設けているため、最後まで粘り強く解答してください。対策としては、特別選抜の過去問やサンプル問題に加え、第 1 回・第 2 回の過去問も活用し、記述形式で解答をまとめる練習を重ねることが効果的です。

佼成学園中学校

算数

［出題傾向］

計算問題を３問、小問題を約５問、文章題としての大設問を３～４題で構成しています。幅広い範囲で出題するが、出題の意図に記載した通り「比・割合」と「図形」が中心となっています。途中の考え方を書けるスペースを用意しています。

［出題の意図］

算数の基礎学力が身についているかを見ます。特に、以下の項目を重視して、問題は作成されています。

◇基礎的な計算力があるか。

◇比、割合の意味を理解し、問題解決に生かせるか。

◇図形をさまざまな見方・考え方でとらえることができるか。

◇問題を読み、論理的に考えて答えを求めることができるか。

国語

［出題傾向］

文芸的文章・論理的文章からそれぞれ１題ずつ出題。また、漢字の読み書きと国語の知識を問う問題をそれぞれ出題します。

1．漢字の読み書き…小学校の学習漢字程度から出題（10 問 10 点程度）。

2．国語の知識問題…ことわざ、慣用表現、四字熟語、敬語、文法など。

3．文芸的文章（小説・随筆）…表現の理解。登場人物・筆者の心情や人間関係の理解。

4．論理的文章（評論・説明文）…語句・指示語・接続関係の理解。文脈・主題の理解。

※上記 1、2 について、本校の過去問や中学受験の問題集などを参考。

※上記 3、4 について、出題順は不同。

［出題の意図］

国語の読解力や表現力を中心に、小学校までの学習事項の理解度・定着度を見ます。

理科

［出題傾向］

小学校の学習範囲を中心に、一部学習範囲を超えて出題します。物理・化学・生物・地学の 4 分野から配点をほぼ均等に出題します。。

［出題の意図］

1．理科についての基本的な知識、科学的な思考能力が十分にあるかどうか。

2．日常生活での理科的な事象についての関心があるかどうか。

以上、2 点を確認する。

［出題内容］
理科についての基礎的知識を問う問題、実験や観察の過程について問う問題、理科的な考え方を問う問題、理科についての時事的な知識を問う問題

社会

［出題傾向］
小学校の学習範囲を中心とした問題です。地理・歴史・政治経済（憲法、国際社会、環境問題、時事問題）の 3 分野から出題します。

［出題の意図］
基本的な知識、図や表の資料を活用する力が身についているかを問います。

［出題内容］
日常生活での社会的な出来事を題材としながら、社会科の基本知識を問う問題。
写真・地図・グラフ・資料などを見て考える問題。

駒場東邦中学校

算数

受験生一人ひとりに対して、正確に計算できているか、問われた内容について理解できているか、解決に至る過程はどのようなものか、などをていねいに判断できるよう、それぞれの問題を作成しています。そのため、「予想の出し方」「答えの出し方」「確かめ」などを記入する解答欄を設けています。それぞれの問題について、自分がどのように考え、その解答を出すに至ったのか、ていねいに表現してください。日ごろの学習の段階から、一つの問題について、さまざまな角度から分析する習慣をつけることが大切です。解答にたどり着くまでの過程をよく考え、それをほかの人にどう伝えていくか（どのようなことばで表現していくか)、十分な時間を使って焦らず地道に取り組んでください。

国語

長文一題の出題が続いています。問題となる文章の文脈を正確に読み取り、自分のことばで表現する力を重視しています。また、基本的なことばの知識と、教育漢字（小学校で習う漢字）全般について、ていねいに学習してください。漢字の書き取りは、「とめ・はね・はらい」「字形」にも注意してください。

理科

小学校学習内容全般に関して、正確な知識と思考力を問います。小学校で学習した「物質・エネルギー」「生命・地球」の各分野全般にわたって出題します。日ごろから、自分の身の回りの自然現象について注意深く見つめましょう。「なぜそうなるのか」「どのようになるのか」などの問いを立て、それぞれについて自分でじっくり考えてください。そして実験や観察で確かめ、科学的に考えて説明する習慣を身につけてください。

社会

さまざまな社会問題を学習していくために必要な基礎知識・思考力・表現力について、どれだけ身についているかを問います。問う知識自体は、小学校教科書の取り扱う範囲や小学生でも知っておくことが望ましい時事的事柄に限ります。日ごろの学習の段階から、「どうして今このような問題が起きているのか」ということをじっくり考えてください。また、地理・歴史・公民という分野の枠にしばられることなく理解を深め、自分の考えたことを的確に表現できるよう心がけてください。。

芝中学校

算数

中学入試の標準問題から応用問題まで、さまざまな分野から幅広く出題していますので、分量が多くなっています。そのため、速く、正確に正解を導き出す計算力が最も大切です。
応用問題では、図形やグラフなどを用いて思考力を問う問題を出題しています。それらを解くには、問題文をしっかりと読み、鍵となる性質を見抜く力を必要としています。日ごろから、考えて解く練習を積んでください。

国語

漢字問題は、前後の文脈にふさわしい意味を考えたうえで解答するようになっています。文字をていねいに書き、漢字が書けることだけでなく、ふだんから「似たような漢字」の「意味の違い」に注意して学習をする必要があります。
読解問題は、設問がそもそも何を聞いているのかを正確に把握できるようにしてください。また、記述式の解答に際しては、「何が」「どうする」などの文の構造を意識しましょう。取りあえず書き始めてしまい、結果的に主語と述語の関係がおかしくなり、結局何を答えているのかわからなくなってしまったという解答が見られます。文字数に合わせて使う単語を取捨選択し、文末表現などに注意しながら、解答を作ることを心がけてください。

理科

「芝太郎君」の行動を追いながら、身近な現象・事象を問題とした第1問は、何げないところにある「理科」を感じ、考えてもらうのが狙いです。理科全般から出題し、最近の話題のテーマを入れることもあります。第 2 問以降は生物・化学・地学・物理分野からの出題です。ここでは基礎知識を問うとともに、計算力や想像力を必要とする問題を出題します。
通常の受験生が知らないと思われることは、すべて問題文のなかで説明しているので心配はいりません。解き方を何となく覚えるのではなく、その背景にある意味を考える習慣をつけておいてほしいです。重要な基礎知識はしっかり持ちつつ、それと読み取った情報とを組み合わせて考える力をつけることを期待しています。
1回・2回ともに、問題を順番どおりに解いていって時間配分がうまくできなかった受験生が毎年見受けられます。全体を見渡し、できるものから解答する練習をしましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野から、かたよりなく出題します。単純に用語を暗記するだけの学習ではなく、それらを知識として整理できているか、基礎知識をもとに推論する力があるか、ということを問います。高得点への鍵は、地理・歴史・公民の小問に対して、速く、正確に答え、論述にどれだけ時間を残せるかです。まずは、地理・歴史・公民のそれぞれの分野についての知識を身につけ、整理しておくことが必要です。
論述については、たとえば「筆者がこのように考える理由は」と問われているのに、自分の意見を述べてしまっては正答になりません。問題とリード文をよく読み、指示に従って解答することが必要です。

城北中学校

算数

小問集合が 2 題、大問が 3〜4 題という構成です。できるだけ取り組みやすい順に問題を並べ、単位はあらかじめ解答欄に記しています。小問集合では、計算・割合（食塩水など）・規則性・場合の数・図形といった、日ごろの学習の積み重ねが生きる分野を中心に出題しています。後半の大問では、グラフを読む問題や文章題、場合の数、図形（平面・立体）など、考える力を試す問題を出しています。なかには、解き進めやすいよう、途中の考え方や解き進め方を評価できるよう、問いを細かく設定している問題もあります。採点は原則として答えのみで行い、〇か×で判定します。ただし、約分のミス（既約分数でない場合）は減点します。帯分数・仮分数のどちらでも構いません。なお、算数選抜では途中式や図への描き込みなど、考え方を記述する問題も一部出題し、解答に至る過程を評価して部分点を与える場合があります。

国語

読解問題と知識問題（漢字・語彙・文法）の 2 題構成で、配点は読解問題が約 80 点、漢字・語彙・文法の問題が約 20 点です。読解問題では、文章の内容を正確に読み取る力に加え、自分のことばで適切に表現する力も重視し、長めの記述問題だけでなく、短い記述問題も出題します。記述問題の配点は高く、解答の内容に応じて幅広く部分点を設定しています。一方、主語が抜けている文章や文末が不完全なもの、句点がないもの、誤字脱字（漢字の間違いを含む）、話しことばの使用などは減点の対象となります。また、指定された字数を超えている場合、文章が未完成の場合は 0 点となります。漢字の書き取りでは、字の上手・下手ではなく、正しい字をていねいに書くことを大切にしています。なお、解答欄の外に書かれた内容は採点の対象となりませんので、欄外には記入することなく、必ず指定された解答欄の中に記入してください。

理科

配点は、物理と化学が各 20 点、生物と地学が各 15 点です。各分野の基本的な知識を問うだけでなく、実験や観察の結果をもとに考える問題や、表・グラフなどのデータを読み取って考察する問題を多く出題しています。また、計算問題（主に物理・化学）、グラフの作成・作図、短文記述問題など、さまざまな形式の問題を出題します。用語や公式をただ覚えるだけではなく、「なぜそうなるのか」を理解し、現象を図やグラフでイメージしたり、自分のことばで説明したりする力を身につけておくことが大切です。漢字指定のある設問では漢字での解答を求めますが、指定がなければひらがなやカタカナでも構いません。例年、計算問題やグラフの作成では得点差がつきやすい傾向があります。ふだんから計算の過程をていねいに確認するとともに、実験結果やデータから必要な情報を読み取り、それを適切に表現する練習を重ねておくことをお勧めします。

社会

配点は、地理と歴史が各 25 点、公民が 20 点です。基本的な知識を問う問題に加えて、地

図・グラフ・表・写真などの資料を読み取り、そこから考える問題も出題しています。漢字指定のある設問では、ひらがなやカタカナで書いた場合は不正解となります。また、指定された字数や、人名を姓名で答えるなどの条件にも注意しましょう。地理分野では、地図・グラフ・表などの資料を読み取る問題を毎年出題しています。歴史分野では、特定の時代に偏らず、すべての時代からまんべんなく出題します。出来事を単に暗記するだけでなく、時代ごとの特徴や出来事のつながり、文化の流れを整理しておくことが大切です。文化財や資料写真を扱った問題も出題しています。公民分野では、社会の仕組みについての基本的な知識に加え、時事問題への関心も大切です。日ごろからニュースに触れ、秋ごろに出版される『〇〇年の重大ニュース』なども活用しながら、社会で起きている出来事を学習した知識と結びつけて考える習慣を身につけておきましょう。

巣鴨中学校

算数

50 分・100 点満点です。大問の配列は難度順ではありません。[1]は答えのみを書く「小問集合」です。[2]～[4]は文章題・平面図形・空間図形などで、それぞれ 3～4 問の小問がありますが、これは難度順になっています。「式」と「答え」を書く欄があり、「式」も採点対象で部分点もあります。式をたくさん書かなければならないわけではなく、面積図やグラフなどで解ける場合は、その図がしっかり描いてあれば十分です。ただし、「答え」だけしか書かれていない場合は、正解でも減点する場合があります。方程式を利用してもかまいませんが、何をＸとしたかを明記してください。全設問数（小問数）は 15 問程度です。

算数選抜

60 分・100 点満点で、算数 1 科目の成績だけで合否を判定します。大問数は 4 題で、[1]は計算問題を含む小問集合です。[1]～[4]はⅠ～Ⅲ期の[1]～[4]とほぼ同じ出題形式です。[4]は会話を読み進めながら解く形式です。「解き方・考え方」を文章で答える問題（小問）が 1 問程度あるので注意してください。

国語

50 分・100 点満点です。[一]は漢字 10 問で、1 問 1 点です。小学校の学習漢字から出題します。[二]と[三]は論説・説明文と随筆文・小説で、それぞれ 2000～3000 字ほどです。詩・短歌などは出題していません。筋道を追って文章を読めるか、論理的に考えられるかなどを問います。ことばに関する問題や心情を問う問題もあります。記述問題は、4～5 問ほどです。中間点・部分点もあります。

理科

30 分・50 点満点です。物理・化学・生物・地学の 4 分野から 1 題ずつ出題し、配点はそれぞれ 12～14 点です。記号・数字は読みやすく、はっきりと書いてください。漢字指定の問題もあります。計算問題では四捨五入の位にも注意してください。生物・地学については、小学校レベルの知識をしっかり覚える必要があります。物理・化学は計算があり、論理的思考力を試す問題になっています。30 分で 40 問前後を解くことになるので、知識問題の処理や計算を正確に、速くできるようにしてください。

社会

30 分・50 点満点です。配点は、地理 20 点、歴史 20 点、公民 10 点となっています。3 分野にまたがる総合問題はありません。各分野で時事問題の背景を問うような出題もあります。日ごろから世の中の政治や経済、社会の動きについて興味を持つようにしてください。記号はていねいに書き、漢字指定の設問は必ず漢字で答えてください。30～50 字程度の論述問題も出題します。論述問題の解答に際しては、設問の意図を正確に理解したうえで、要点を押さえた文章が書けるように心がけてください。

その他関連情報

各科目とも、Ⅰ～Ⅲ期の形式・レベルはほぼ同じです。合否は 4 科目の合計点で判定します。合格の目安となる正答率は 65～70%で、科目ごとの基準点はありません。

成城中学校

算数

大問を 6 題程度出題します。解答数は 20 問前後です。設定が多い問題や長文の問題にもじっくり取り組んでください。解答用紙には解答のみを記入する方式なので（途中式は見ません）、計算間違いのないようていねいに記入するといった十分な注意が必要です。

国語

大問を 3 題出題します。1 題は漢字の読み書きや、言語知識を問う問題（配点 20 点）で、2 題は長文読解です。長文読解の設問ではていねいな読み取りが必要です。記述問題を複数題出題するので、その対策が必要となります。分野としては文学的文章（小説など）と論理的文章（評論など）です。

理科

大問を 3 題出題します。それぞれの配点は、ほぼ 20 点です。基本的な知識を確認しておきましょう。また、実験データの表やグラフから規則性を見いだすことも大切です。計算問題は答えのみが採点の対象となりますので、ミスのないよう十分に注意しましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野から均等に出題します。人々の暮らしを成り立たせているさまざまな背景や条件について、どのくらい関心を持って学んできたかを問いたいと考えています。例年、地形図に関する問題や時事問題を出題しています。また、文章による記述問題も出題します。

世田谷学園中学校

算数

大問 6 題で構成しています。大問1は、四則計算やいわゆる 1 行問題と呼ばれるもので、基本的な問題です。大問2 3は、解答のみの客観問題でオーソドックスなものが出題されます。大問4～6は、解答のみの客観問題と記述問題の融合問題です（記述問題は大問 1 題につき 1 問）。記述問題は考え方や途中式による部分点もあります。じっくり取り組み、できるだけていねいに解答するよう心がけてください。中学入試の定番の問題をきちんと解けるようにして、 苦手な単元がないように学習しておくことが大切です。
※2026 年度から、上記のように客観問題と記述問題の融合問題を出題します。また、前年度まで大問2～6の小問数はすべて 2 問でしたが、2026 年度からは問題によって小問数が異なる場合があります。

国語

文芸的文章や説明的文章などを素材に、大問 1 題を出題します。長文問題となるので、素材文をじっくりと読むことが大切です。主題・心情・論理・変化・対比など、それぞれ文章の核となる部分を中心に、語句の意味、指示語の内容、文脈の把握や思考力を問う設問をバランスよく出題します。漢字は、素材文のなかから、5～10 問程度の出題を予定しています。

理科

大問 3 題で構成しています。1 次から 3 次試験まで、物理・化学・生物・地学の 4 分野から合計 3 題を出題します。観察や実験を通しての出題が多いので、机上の知識だけではなく、ふだんから実験などに積極的に参加していく姿勢が大切です。思考力を要する計算問題もあるので、筋道を立てて計算する力を養っておきましょう。また、数値を問う問題では、特に指示がないかぎり、分数ではなく小数で答えるようにしてください。

社会

大問 3 題で構成しています。1 次から 3 次試験まで、地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。大問1は地理、大問2は歴史、大問3は地理・歴史・公民の総合問題で、50～80 字程度の記述問題も複数出題されます。地理・歴史・公民いずれの分野も、基本事項や用語をしっかりと押さえることが大切です。また、統計・史料・写真といった資料を分析して解答する問題にも対応できるように、物事を多面的にとらえることを意識しながら学習しましょう。なお、漢字指定でない設問は、ひらがなで答えても構いません。

算数（算数特選）

大問 6 題で構成しています。大問1～3は解答のみを書く形式で、標準レベル以上の客観問題になります。大問4～6は、解答のみを書く客観問題と記述問題の融合問題です（記述問題は大問 1 題につき 1 問）。1 次から 3 次試験の後半の問題と同程度か、それ以上の出題レベルになります。算数特選の過去問だけでなく、1 次から 3 次試験の過去問を解く

ことも対策につながります。まずは苦手な分野をなくし、定番の問題をきちんと解けるようにして、後半の応用問題の類題で何度も演習をしましょう。
※2026 年度から、上記のように客観問題と記述問題の融合問題を出題します。また、前年度まで各大問の小問数はすべて 2 問でしたが、2026 年度からは問題によって小問数が異なる場合があります。

高輪中学校

算数

「A・B・C 日程」は大問が 6 題、小問が 20 問前後で、すべて答えのみを記入する形式です。1は計算問題、2は小問集合です。3と4は「速さ」「規則性」「割合と比」など、5は平面図形、6は立体図形で、いずれも標準問題から応用問題までとなっています。
2 月 2 日の「算数午後入試」は標準問題から応用問題までの大問 4 題で、1と2は「速さ」「規則性」「割合と比」など、3は平面図形、4は立体図形です。答えのみではなく、途中経過の記述・作図なども採点の対象となります。方程式の使用も認めています。

国語

大問は 3 題です。1はことばの知識の問題、2は随筆や説明文などの論理的な文章、3は小説などの文学的な文章からの出題です。2と3は読解問題が中心で、筆者の考え方や、登場人物の心情をつかむことが大切です。

理科

大問は物理・化学・生物・地学の 4 分野から各 1 題を出題します。基本的な事柄を問う問題から応用力を試す問題まで幅広く出します。各分野とも配点は均等で、それぞれ 15 点前後です。選択肢から答える問題もありますが、計算・説明・作図などをするものもあり、直線定規が必要な場合もあります。

社会

大問は 3 題、配点は各 20 点です。1は地理的分野中心の総合問題、2は歴史的分野中心の総合問題、3は政治・経済・時事問題などが中心の総合問題です。日常生活のなかで社会の動きに関心を持つことが大切です。多くの問題に字数や漢字などの指定があります。人名・地名、事柄、事件の名前などは、漢字で正しく書けるようにしてください。

東京都市大学付属中学校

算数

〈出題方針〉第 1 回から第 4 回まで[1]は小問集合、[2]～[5]は大問です。[1]の小問集合は、計算・割合・特殊算・図形など幅広い分野から基礎的な一行問題を出題します。[2]～[5]の大問は、文章題（数量）2 題、図形 2 題の予定です。配点はすべて 1 問につき 5～6 点です。出題傾向は例年どおりなので、過去問にしっかり取り組んでください。なお、問題の一部に記述解答を取り入れています。図に補助線を加えたり、考え方を書いたりする形式です。

〈受験生へのアドバイス〉難問・奇問は出題しません。標準的な問題を確実に解けるようにすることを心がけてください。数量分野では、線分図、面積図、速さに関する問題、場合の数の問題について、図形分野では、特に比を用いた面積・体積の問題について、よく学習しておきましょう。計算練習は、市販の問題集でよいので、速く、正確にできるように毎日欠かさず取り組みましょう。

〈採点基準〉帯分数と仮分数のどちらで答えても可ですが、約分していない分数や、最も小さな数字にしていない比は 1 点減点します。

国語

〈出題方針〉基礎的な力（読解力・知識）を問うことを中心として問題を作成しています。文章問題において特に意識しているのは、多様な文章に対応できる力を問うことです。説明文および物語文では筋道立てて正確に読み取る力を測り、詩では比喩や省略などの表現を手がかりとした読解力を見ます。また、知識問題においては、漢字の成り立ちやことわざ・慣用句などの知識を問うようにしています。

〈受験生へのアドバイス〉苦手なジャンルをつくらないように、さまざまな文章を読むことを心がけてください。また、知識問題に関しては、やみくもに暗記をするのではなく、資料集を活用したり、辞書の例文を読んだりして、工夫して覚えるようにしてください。問いに対して的確に答えるために、設問をよく読むことも大切です。過去の入試問題を解き、出題パターンや問いの表現などに慣れておくことをお勧めします。

〈採点基準〉漢字の書き取りはもちろん、記述問題でも漢字・ひらがなを問わず、字の体裁がおかしいもの、画数が正しくないものなどは減点対象としています。記述問題については、原則として、指定した字数の 8 割は書くようにしてください。5 割未満の場合は採点対象外となります。また、字数、誤字、キーワードの欠落などによって、減点とすることがあるので注意しましょう。

理科

〈出題方針〉物理・化学・生物・地学の 4 分野からバランスよく出題します。作問に当たっては、「理科全般の基礎的な知識を持っていること」「実験データやグラフが読み取れること」「問題文から必要事項が読み取れること」「数値計算ができること」の 4 点を重視しています。

2026 年度入試からスタートする第 2 回入試（2/1 午後）でも、ほかの回と同様にバラン

スよく基本的なことを身につけているかどうかを問う出題とします。ただし、試験時間がわずかに長い分、問題数が若干多くなります。

〈受験生へのアドバイス〉4 分野について偏りのない学習を行い、基本事項を確実に押さえ、現象の説明ができるようにしてください。また、用語は正確に覚えておくことが必要です。練習問題や過去の入試問題を、時間配分に気をつけて解いてください。問題の前文（説明文）や会話文がヒントになることもあるので、注意深く読みましょう。

〈採点基準〉説明問題では部分点を与える場合があります。記述問題では、漢字指定の場合を除き、ひらがなで書いても減点はしません。

社会

〈出題方針〉地理・歴史・公民の 3 分野からバランスよく出題します。地理においては、雨温図・統計グラフなどを正確に読み取れるかどうか、歴史では、時代ごとの政治・経済・文化の違いを理解しているかどうか、公民では、憲法や国内政治のしくみを理解しているかどうか、環境問題や国際関係などを含めた時事問題に興味・関心があるかどうか、といったことを見ます。なお、3 分野に共通して、人名・地名・事件名など、小学校で学習した社会科の基礎用語については正確に書くことが大切です。漢字指定の場合は、問題文中に指示してあります。

〈受験生へのアドバイス〉3 分野にわたって偏りのない学習を行い、基礎用語を正確に理解しておいてください。また、日ごろから新聞やテレビの報道番組をチェックし、時事問題にも関心を持つよう心がけてください。練習問題や過去の入試問題を解いて、理解を深めておくことも大切です。

〈採点基準〉指定の書き方でなければすべて不正解となります。特に漢字指定の問題は、誤字・ひらがな・カタカナはすべて不正解で、△はありません。

桐朋中学校

算数

中学入学後の基礎となる計算力や図形についての知識を問う問題から、算数の総合的な力を見るための応用問題まで、特定の分野に偏らないように出題しています。問題はほぼ難度順に並び、例年、記述問題を出題しています。記述はどのように考えて答えを導いたかを確認するものです。式だけでなく、図や表などを利用してもよく、途中の考え方が採点者に伝わるように書き表すことが大切です。自分の頭で考え、しっかり手を動かして問題の構造を理解したり、規則性を見つけたりすることになる出題を心がけています。

国語

受験生に読ませたい文章から出題することを第一に考えています。これから中学生になろうとする児童に読んでもらい、物事について深く考えるきっかけや、新たな視点を得る機会としてほしいからです。設問については、本文の内容を自分のことばでわかりやすく伝える力を見られるように作成することを心がけています。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から偏りなく出題します。分野ごとにテーマを持たせ、基礎的な知識・理解を問う問題から発展的な問題まで、バランスよくなるように配慮し、平均点は 6〜7 割になるようにしています。具体的には、日常生活につながる題材を使い、身近な生活のなかにある理科を意識した問題作りをしています。また、こつこつと勉強してきた受験生が点数を取れるように、奇をてらった問題は出題しません。

社会

歴史・地理・公民の分野ごとにテーマを考え、「知的関心」を持ってもらえるような出題をします。基本的な事柄を問い、受験生が達成感を得られるように、平均点 7 割を想定した問題作りをしています。また、歴史資料や地図帳を使っての学習、統計表・グラフを読んでわかったことを表現する力、時事問題への関心なども見られるような出題を心がけています。

獨協中学校

算数

基礎的な計算力、文章問題を正しくとらえる力、図形を見て考える力などを試します。問題集を利用して学習するときには、途中式を書いたり、図を描いたりしながら、さまざまな解き方を自分で考えるように心がけてください。実際の入試問題には、途中の計算を解答用紙に書くものがあります。そこに書いてある解答を導くための式や考え方を評価し、部分点をつけることがあります。そのため、必要のない式や間違った解き方を消すことも忘れないでください。

国語

長文問題では、文章の内容を正しく理解できているかどうかを重視します。小説は、さまざまな情景や登場人物の心情を正確につかむこと、説明文は、文章全体の筋道を読み取ることが大切です。情景や心情を思い浮かべながら小説を読んだり、論理的に説明文を読んだりする訓練を、日ごろからしておきましょう。設問に答えるときは、傍線部付近だけを読むのではなく、文章全体から考える習慣を身につけておくことが重要です。また、記述問題の場合は、必要に応じて文末に「こと。」「から。」を付けるのを忘れないでください。文末表現が不適切な解答は減点の対象です。

理科

日常の生活のなかで経験したり、関心を持ったりするような題材を取り上げて、そのなかに含まれる科学的なものの考え方や知識を問う問題を中心に出題しています。一見、見慣れない問題のように思えても、問題文に導かれながら考えを進めていくと、答えが出てくるようになっている問題が多いので、問題文をよく読み、じっくりと考えてください。細かな知識よりも、結論を導く過程（正しい作業や考え方）を重視しています。基礎的な計算力（理科では小数で答えを求めます）も問いますので、ふだんから練習しておくとよいでしょう。

社会

教科書や参考書の内容を中心に、基本的な事柄の理解、資料を読み取る力、社会に対する関心などを確認します。地理・歴史・公民（時事を含む）の 3 分野からバランスよく出題します。基本的な地名・人名・用語は、漢字指定で解答してもらうことが多いです。その場合は、「ひらがな」はもちろん、乱雑な字も正解にはなりません。漢字で正確に書けるように練習しておいてください。基本的な事柄を説明したり、資料を読み取ったりするような思考力を問う説明問題も出題します。資料に即して読み取れたことや考えたことを文章にしていきましょう。

日本大学豊山中学校

算数
小学校で学習する内容から、計算・図形・整数・比・単位などの基本的な問題に加え、発想力・論理的思考力を問う応用問題も出題しています。

国語
ことばの知識問題、説明文、小説から構成されています。知識問題は、漢字の読み書きと部首、ことわざや四字熟語の意味など基礎的なものです。文章題では選択問題を中心に、記述問題も含めて接続語や指示語、空欄補充、内容合致や心情の説明など、基礎的な問いを中心としています。

理科
「生命」「物質」「エネルギー」「地球」の各分野からバランスよく出題しています。基本的な知識問題や計算問題のほかに、実験・観察から思考させる問題や、理科に関する時事的な出来事を問う問題もあります。
※社会と合わせて 60 分・100 点（理科は 50 点満点）。

社会
地理的分野では日本について、地域の気候や特色、環境問題や生活とのかかわりを学習しておいてください。資料や地図から読み取る力も試します。歴史的分野では重要な用語と人物を学習し、それらを「流れ」で理解しましょう。公民的分野は時事的な内容を中心に、政治や国際関係について学習しておくとよいでしょう。
※理科と合わせて 60 分・100 点（社会は 50 点満点）。

本郷中学校

算数

例年どおり、大問は 5〜6 題です。計算問題が 2 問、1 行問題が 4〜7 問で、あとは文章題などです。合計 15 問前後を出題します。文章題のなかには、グラフを読み取る力を見る問題や、図形（平面・空間）の問題が含まれており、なるべく取り組みやすい問題を先に配置するようにしています。中学校での数学の授業についていけるよう、速く正確に計算できるか、きちんと考えられるかを問いたいと考えています。

国語

論説文や説明文などの論理的文章と、物語文や随想文などの文学的文章からの大問を 1 題ずつと、漢字の大問の計 3 題を出題します。読解問題をはじめとして、語句の意味や空所補充など、さまざまな形式で出題する予定です。記述問題では、文末処理や誤字による減点があります。正確に書かれていない文字は、得点にならないこともあるので、ていねいな字で書くように心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題します。4 分野の配点はほぼ均等で、出題傾向は大きくは変わっていません。基本的な知識や計算力などの基礎力を身につけているか、その基礎力を応用できるかを問う問題です。表やグラフを読み取る力や、実験に対する考察力を問う問題、科学的現象に対する読解力を問う問題もあります。身近な生活のなかにある科学に興味を持って勉強に取り組んでください。最近話題となった自然科学に関するニュースなどもチェックしておくとよいでしょう。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。配点はそれぞれ 25 点ずつです。地理分野では、「地図・統計・グラフなどの資料」が読み取れるか、それぞれの地域の特色を理解しているかを問います。特に、地形図の読図の問題は必ず出題します。歴史分野では、丸暗記ではなく、歴史の流れをしっかり理解しているか、また、基本的な知識を正確に持っているかを問います。公民分野では、基本的な知識に加えて、新聞やニュースなどに興味を持って勉強に取り組んでいるかなどを問います。憲法を読み、関連する基本的な知識を整理しておいてください。漢字の指定もあります。正確に書かれていない文字は得点にならない場合があるので、ていねいな字で書くように心がけてください。

明治大学付属中野中学校

算数

50 分・100 点満点です。計算から文章題、平面・立体図形まで、小学校で学習する全範囲から出題します。例年の問題構成としては、最初に計算・小問が 8～10 問程度あり、その後、文章題、グラフの読み取り、規則性、平面・空間図形などの問題が 8～10 問程度続きます。本校では難問・奇問といわれるような内容は出題しないので、確実に正解を導けそうな問題から取り組み、速く正確に計算する練習を着実に行っておいてください。

国語

50 分・100 点満点で、前年度から大きな変更点はありません。問題構成としては、例年、長文読解が 6 割で、小問が 4 割です。記述式問題も多く、誤字・脱字がある場合や、答え方が不正確な場合（理由を問われているのに「～こと。」と答えているなど）は、減点の対象になります。また例年、指示語、接続詞、主語、ことばの係り受けの問題などを出題しています。小問については、小学校の学習漢字の範囲内から、漢字の読み書きを 20 点前後出題します。字はていねいに書くことを心がけてください。そのほか、四字熟語、慣用句、ことわざ、語の意味、ことばのきまり（文法）などからも出題します。

理科

30 分・50 点満点で、物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題します。解答形式は「選択肢から選ぶ」「語句を解答する」「計算による数値解答」が多く、10～20 字の記述式問題を出題する場合もあります。主な内容は、「知識を問うもの」「法則を使って論理的に思考する力を問うもの」「実験・観察に関するもの」「分野を超えた総合的なもの」などです。小学校の理科の教科書をしっかり読んでから問題演習を行ってください。学習量に比例して必ず力がつくはずです。

社会

30 分・50 点満点で、地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。解答形式は「選択肢から選ぶ」「語句を解答する」「短い文章で解答する」などがあり、1 問当たりの配点は 1～3 点です。地理は日本地理が中心ですが、基礎レベルの世界地理を出題することもあります。グラフを読み取る問題もよく出題しています。地名については、地図帳で位置を確認する習慣をつけておいてください。歴史は、事柄を単独で覚えるのではなく、原因から結果までの全体の流れを理解するようにしましょう。年表を活用した学習が効果的です。文章で解答する問題は、歴史で出題することが多くなっています。公民は日本の政治が中心で、世界については基礎レベル程度です。学習内容はそれほど多くないので、漏れのないようにしましょう。また、過去 1 年間の時事に関連する問題も想定されます。また、用語・地名・人名を漢字で正しく解答できるようにしておきましょう。

立教池袋中学校

算数

基本から発展的な内容まで、多岐にわたる問題を出題しています。制限時間内に確実に解くためには、日ごろから的確で迅速な計算力を身につけるトレーニングが必要です。また、問題のなかには複雑な設定が含まれているものもあるので、正確に状況や内容を読み取るだけではなく、多くの条件を整理し、論理的に考える力も身につけておくことが重要です。そのためには、公式や通常の解法をただ暗記するのではなく、どんなに簡単なことでも日常的に疑問を抱くことが鍵です。より良い解決策を見つけ、さまざまな視点から問題をとらえる姿勢を忘れずに、楽しみながら学習を進めてください。

算数　帰国児童入試

基本から発展的な内容まで、多岐にわたる問題を出題しています。一般入試の過去の問題を解くことで、正確で迅速な計算能力を身につけるだけでなく、複雑な条件を整理し、論理的な思考を養うトレーニングをしてください。

国語

問題は長文 2～3 題、韻文（詩歌など）、ことばと漢字の知識問題、漢字の書き取りで構成されています。長文問題は、設問だけを見るのではなく文章全体をしっかりと読み込み、内容を正確に把握することが肝心です。長文 1 題は極端に長くはありませんが、全体の問題数が多いので、短時間で文章を読む力と、限られた時間内で設問の意図をとらえる力を磨いてください。
また、韻文、ことばと漢字の知識問題は、知らないと解けないものばかりではありません。解答に必要なヒントが隠されていることもありますので、それを注意深く見つけ出して答えてほしいと思います。

国語　帰国児童入試

出題形式は一般入試と同様であり、長文問題が 2～3 題、詩歌などの韻文、ことばと漢字の知識問題、漢字の書き取りで構成されています。正しく答えるためには、設問だけを追うのではなく、文章全体の意味をしっかりと把握することが重要です。長文への対策として、小説・随筆・説明文など、幅広い種類の文章に日ごろから親しんでおくとよいでしょう。また、一般入試の過去問題を用いて練習することをお勧めします。

理科

本校の理科の授業では、実生活に密着したサイエンスの現象を多く扱い、その恩恵や奥深さに気づくことができるよう展開されています。そのため、入試の作問においても、身近な道具やありふれた現象をあらためて問う題材が選ばれやすい傾向があります。出題範囲は物理・化学・生物・地学の 4 分野にわたって幅広く扱うことを心がけています。時には環境や時事を含む総合問題もあるでしょう。一般の中学入試で目にする典型的な問題というよりは、見たことのないユニークな設定だと感じる受験生が多いようです。でも大丈夫。戸惑う

のはほかの受験生も同じです。本文や表、グラフをくまなく読み取れば、答えにつながるヒントが散りばめられています。丸暗記の学習ではなく、与えられた条件のなかで自分の頭で考える力。それが受験生に養ってほしい力です。

社会

本校の社会科では、社会をつくり上げる構成員＝市民として、自分自身を社会にどう役立てていくかを考える姿勢を身につけてほしいと考えています。そのためには、①基本的な知識を習得すること、②資料を読み取り分析する力、③社会で起きている事柄を論理的にとらえ、さまざまな視点から考える力、④自分の意見を組み立てる力が大切です。よって入試問題もこれら 4 点を念頭に、地理・歴史・総合の 3 分野について、基本的な知識・語句を問う問題や、資料や図表からわかることを考え説明する問題、論理的に自分の意見を述べる問題を出題します。